

日々の田高（夏の課外学習_社会保障ゲームで学ぶ）

8月28日（金）の午前中、本校にてNPO 法人 Social Change Agency が作成した「社会保障ゲーム」を活用した講座を実施しました。

日本の社会保障制度は、「自ら申請しなければ支援を受けることができない」仕組みです。人生を歩む中で、だれしも遭遇する可能性のあるピンチの際に、制度の概要等を知っていると切り抜けやすくなること、社会福祉方面に進学希望の生徒にも同様のことをしてもらい、進学に向けた意欲を上げることもねらいました。当日は、東京都ボランティア教育研究会の講座としても開催しました。

◆ 社会保障ゲーム ◆

講師の横山北斗さんが以前、病院内のメディカルソーシャルワーカー（MSW）で勤務していた際に、制度を知っていれば、早めに相談していれば、深刻な状況にならない例に数多く触れ、中学生・高校生から「社会保障に関する理解」を広めることが、人を追い詰めなくて済むと感じ、体験型カードゲームが誕生しました。

ゲームでは、具体的にイメージできるような諸事項がかかれた「キャラクターカード」を選ぶことから始まります。次にゲームセットの中からピンチカードを選択します。その場合に、どのような困難が生じることが想像できるか、付箋に書き込み。その困難に対応できる社会保障制度のカードを選び、最終的に講師の横山さんから講評いただきます。



キャラクターとピンチが決まり、様々な面で困ることを考えています



困ることを支援してくれる「制度」を選択し、該当部分に制度のカードを置きます。



こんな制度があったらいいなという発想に、既に同様の制度がないか調べる生徒



講師の横山様から、丁寧に説明をうけている様子。

活動を終えて、生徒からは「世の中には様々な社会保障制度があり、多様なリスクに対応していることが分かった一方で、まだまだ行き届いていない課題もあることに気づいた」や、「制度が存在するだけでなく、自分から知った上で行動していくことが重要なのだと再認識した」といった声が寄せられました。